

助けを求めている人に向き合うこと

福山 清蔵（東京いのちの電話）

いのちの電話で人々と向き合う際の基本について簡単に述べさせていただきます。約100年前に起きた「タイタニック号」の悲劇は世界中の人々が知っていることです。そして、じつはこの海難事故の背後にいくつもの残念な行き違いがあったことが事故調査委員会によって明らかにされています。

タイタニック号は当時としては最新の設備を備えた豪華客船で、イギリス（サザンプトン）からアメリカ（ニューヨーク）にわたる処女航海でした。この未曾有の海難事故の前には、その近くを航行していた「カルフォルニアン号」から都合7回もタイタニック号に「氷山注意」の警告無線が発信されていました。しかし、タイタニック号の無線室はアメリカ大陸に近づいたため大量の電報の処理に追われていたので、7本目の受信途中にその煩わしさから無線を切ってしまったのです。そこで怒ったカリフォルニアン号も無線を切ってしまいました。そのため、いざ、タイタニック号から「SOS」が発せられた時にカリフォルニアン号はそれを受けることができませんでした。

一方、比較的近くを航行中の「マウント・テンブル号」はタイタニック号のその救助信号を受信して救助に向かいかけました。しかし、氷山衝突を怖れたためエンジンを切り、明かりを消して「いないふり」を決め込みました。結果、107km離れた「カルパチア号」が現場に到着したのは沈没から2時間後になりました。その分、被害が増加したのです。（1912年4月14日、死亡者1517人と推定）

私達はいつ助けが求められてもよいように「電話」の前で待機していることが求められています。助けを求めている人に目を向けること、それを使命として設立されたのですから、「良い対話」「正しい理解」「適切な応答」の前にまず、いつでも、誰からであっても電話を受けるという覚悟と心身の準備がなりよりも大切なのです。

子どもを亡くして4年もの間嘆き、苦しみ、悶え悲しんでいた母親がいます。この方は遺骨を墓に埋葬することもなく未だに手元に置いたままで毎日閉じこもっているのです。この母親は、周りの家族や友人たちから「もう、4年も経ったのだから、亡くなった子どものことはいい加減に忘れなさい」「いつまでも悲しんでいると亡くなった子どもが成仏できない」「早く自分の生活を取り戻してほしい」と言われ続けていました。しかし、この方は『死んだ子どものことを想うと、今でもこの胸はキリキリと痛みます。だけど、私はこの痛みがなくなるほうがもっと辛いのです』と語るのです。

この言葉を聴いた瞬間、私の心は深い後悔で溢れました。なぜなら、私もこの方の周りの人々のように「もうそろそろ、悲しみから立ち上がってほしい」「もうそろそろ自分を取り戻してほしい」と思っていたのです。そして、どうしてこの人が悲しむための時間の長さを私が決めたがっているのだろうか。さらに、悲しみや苦しみは早く無くした方がよいとも決めつけていたのです。当時の私は素晴らしいカウンセラーとは、悲しみや苦しみをできるだけ「早く、軽く、小さく」することに熟練している人だと考えていましたし、自分もそのようになりたいと願っていたことに思い至ります。

もちろん、人の悲しみや苦しみがいつまでも続いてほしいとは思いませんが、今まで私がカウンセリングで目指していたのは、無理矢理人から悲しみや苦しみを奪い取ってしまい、却ってこの母親のように追い詰めていたのかもしれない。そうであれば苦しむ人を助けているつもりで、反対にどれだけ多くの人々を苦しめてきたのかと言うことなのです。その人の歩く速さと一緒に歩いていけるといいのですが、なかなかこれが難しいですね。

肯定されたいことの光と陰

根本 俊雄 (NPO 法人 サンネット青森)

もう40年以上前。仲の良い先輩が「就職を決めた」と話しかけてきました。「船舶のハッチ製造の会社の経理に就職することにした」というのです。そこまでは何の問題もありません。問題は、ほくの心のリアクションです。「船のハッチだけつくる会社！ その会社の経理！ ああ、なんてことだ」。めまいを感じ、なぜか心が動揺したのです。

それまでのほくは、このような「船舶竣工→ハッチ製造→経理事務」という〈社会のつながり〉について、爪の先ほども考えたことがありませんでした。不意を突かれました。「社会とはそんなに複雑に、細分化しているのか。ならばほくはその社会でどう生きていくのだろう…」。そんな不安が21歳のほくを襲いました。

心象風景的に描くとこのようになります。小学生くらいのほくが、裏の空き地で友だちと二人でビー玉遊びをしている。ふと気になって後ろを振り向くと、そこは見たこともない大きなビル群の巨大都市。ビックリして友だちに目を向けると、背広を着てカバンを下げた大人になっていた。大人の友だちはこれからあのビルの片隅にある会社に行くという。そして、ほくとビー玉が残された。その頃、ほくは子どもの世界と大人の社会の境に立っていたのです。

このことから仕事について真面目に考えるようになります。やがて福祉関係の仕事を選び、現場で右往左往し、たくさんの人に世話になり、自分の道を探してきました。いまになって思えば、あの訳の分からない驚きは、自分探しのスタート、それなりの「青年期の危機」だったのです。

さて、なぜ、こんなことを書いたのかというと、最近、ある福祉関係の知人から若い当事者のことを聞いて、ひょっとすると最近の若い人のなかには、ほくとは異質の「危機」を体験している人がいるのかもしれない、と思ったからです。彼はこんなことを話してくれました。

—ある若い女性から「私は肯定されたいんです」と真面目に相談された。「ただ私の言うことを受け止めて、肯定してほしいんです。だからカウンセリングをどこかで受けたいんです」。ずいぶん身勝手な欲求のように聞こえたけど、まだ女の子と言っていいような年頃の彼女は、いじめで傷ついた体験があり、それもあって精神科に通っている。確かにもっと「肯定」されることが必要だと思うんだ。彼女は思いをようやく話せたという感じかな。ただ、心理学者じゃないからわからないけど、肯定されることが目的のカウンセリングでは、依存してしまわないかな…。とはいっても、肯定されるだけの人間関係なんかないし。どうしたものでしょう…。—と。

ほくは彼女の心象風景を想像しました。小さな女の子になった彼女がリカちゃん人形で遊びます。リカちゃんのお家にはデザイナーのお母さんがいて、フランス人のお父さんがいて、姉妹がいます。学校や近所には友だちやボーイフレンドがいて、自家用車も別荘もスマホもあります…。ふと気になって、振り返った彼女は、夕暮れの迫る現実の家の中、ひとりぼっちに気づく。お母さんがいない！ さみしさが一気に押し寄せる。

かつてのほくは〈社会のつながり〉を求めましたが、彼女の場合は〈心のつながり〉を探す旅になるかもしれません。きっと、現実のなかの「こっちだよ」「それでいいんだよ」という「声」を頼りに、彼女はあちこちの扉を開けてみたいと思っているのでしょう。「肯定」が新しい世界へのいざないになるといいのです。勇気を奮ってあちこちの戸を開け、最後に、台所でトントンと夕餉の支度をしているお母さんを見つけるかもしれません。もともとそこにいたお母さんを見つけるために、長い旅をしたことになるかもしれませんが、それも必要な旅なのではないでしょうか。

相談電話 0172-33-7830 (毎日12:00~21:00)

公開講座のご案内

「あした、笑顔になれ…夜回り先生、いのちの授業」

◇講師 水谷修氏 (上智大学非常勤講師、花園大学客員教授)

TBS「白熱ライブ ビビット」レギュラーコメンテーター)

◇日時 2016年3月12日(土) 14:00~15:30

◇会場 弘前市民文化交流館(ヒロコ4F)

◇定員 150名(先着順) 入場無料 ※定員になり次第、締め切りとさせていただきます。

◇申込み先 あomorいのちの電話事務局 FAXでお申込みください。 FAX 0172-38-5355

第23期生 電話相談員新人養成講座

新人養成講座の研修は2016年5月下旬から始まります。

☆詳細は3月頃にご案内できますので、事務局にお問い合わせください。

◇あomorいのちの電話事務局 月曜日~金曜日:午後1時半~4時半

TEL 0172-38-4343 FAX 0172-38-5355

☆HPでもご覧になれます。<http://www.inochi-a.net/>

青森県民のための自殺予防いのちの電話



こころの苦しみを
お話しください

相談受け付け 12:00~21:00

0120-063-556

毎月1日はフリーダイヤル

あomorいのちの電話を応援しています

賛助会費とは別に寄附いただきました。

岡本内科医院

院長 岡本勝博

弘前市松森町124

TEL 0172-37-5811

弘果弘前中央青果(株)

代表取締役 大中 忠

弘前市末広1-2-1

TEL 0172-27-5511

(株)日善電気

代表取締役 相馬祐次

弘前市藤野1-7-6

TEL 0172-36-1515

(株)大川地建

代表取締役 大川 誠

弘前市城東4-4-4

TEL 0172-29-7796

ミカミ歯科

院長 三上弘之

弘前市駅前1-1-5

TEL 0172-33-5400

藤代健生病院

院長 関谷 修

弘前市藤代2-12-1

TEL 0172-36-5181

(株)スコーレ

代表取締役 大中 廣

弘前市駅前3-15-5 駅前ビル3F

TEL 0172-37-5751

こひつじ保育園

園長 吉田孝子

弘前市榎木用田185-1

TEL 0172-98-2601

やぎはし腎・泌尿器科医院

院長 八木橋勇治

弘前市笹森町39-1

TEL 0172-38-5533

津田医院

院長 津田敏夫

弘前市桔梗野4-7-4

TEL 0172-36-2612

(社福) オリーブ会

理事長 石澤 誠

弘前市鷹匠町16-1

TEL 0172-39-2200

石沢内科胃腸科

院長 石澤 誠

弘前市新町151

TEL 0172-34-3252

温かいご支援をありがとうございます

資金ボランティアとして皆様のご支援を！

あおもりのちの電話は、相談電話、相談員養成費、広報活動費、センター管理費等で、年間550万円が必要です。皆様の温かいご理解とご支援で活動していますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

☆ 正会員

(個人) 年間 1万2千円

☆ 賛助会員

(個人) A:1万2千円 B:1万円 C:5千円 D:3千円

(団体) A:10万円 B:5万円 C:3万円 D:1万円

◇振込先

①郵便振替 02300-2-3761 特定非営利活動法人あおもりのちの電話

②みちのく銀行 弘前営業部 (普) 2009914 特定非営利活動法人あおもりのちの電話

「いのちの電話」統一番号 0570-783-556 (毎日10時～22時)

特定非営利活動法人あおもりのちの電話
〒036-8691 青森県弘前郵便局私書箱29号
事務局 TEL 0172-38-4343
FAX 0172-38-5355

発行日 2016年1月20日
発行人 石川 敏一
編集 事務局